

百菓之図

お殿様が作った百種類のお菓子カタログ

一月 朝日饅頭



三月 玉手箱



二月 カスドース



お菓子

五月 花乃瀧



六月 山椒羹



七月 袖乃香



八月 更紗香



九月 栗摘羹



十月 種が島



十一月 木乃葉餅



十二月 烏羽玉



ポルトガル船の来航によって、平戸に西洋のお菓子が伝わったのは今から約四百年前。その菓子文化が現在まで脈々と受け継がれている陰には、一人のお殿様の存在があった。

平戸藩主・松浦家第三十五代熙公がその人。熙公は平戸城下の菓子舗、葛屋と堺屋に百種類の菓子作りを指示。一八四五年には図録の製作を命じた。「百菓之図」と呼ばれるその図録には極彩色で菓子が描かれ、菓子名はもちろん、それぞれの製法が細かに記載されている。

熙公の時代、菓子文化はすでに確立しており、特に京菓子は広く国内に知れ渡っていた。そんな中、熙公は平戸の菓子文化にも誇るべきものがあり、後世に伝えることは大きな歴史的意義があると考えたようだ。熙公は六年もの歳月をかけて、試食を繰り返しながら百菓之図を完成させた。その中には、江戸や京都で有名だったものも含まれているものの、南蛮菓子を取り入れたものや、平戸独特の和菓子も多く

描かれている。

松浦史料博物館の館長を務める岡山芳治さんは熙公の人柄について、こう話す。「熙公の父・静山公は隠居後は江戸で暮らしたのですが、熙公は隠居後に平戸へ帰り、この地で晩年を過ごしました。平戸八景の選定を行ったり、神社仏閣を整備したりと、平戸の文化の発展に大きく貢献しました。平戸によほど愛着があったのだと思います」。

百菓之図に描かれている「烏羽玉」や「カスドース」といったお菓子は、平戸土産の定番となつて、今でも人々に愛されている。そして近年は、百菓之図に影響を受けた平戸の菓子職人とオランダから招いたクリエーターがコラボレーションし、新たなお菓子を作つて世界へ発信を続ける、という大きな取り組みも生まれている。「東西百菓之図」と呼ばれるこのプロジェクトでは、まさに「平戸菓子」ともいえるべき独特のお菓子が誕生し、注目を集めている。お殿様が手掛けたお菓子カタログは、時を経てなお人々の心を夢中にさせていた。



「百菓之図」はお菓子文化を伝える、平戸の宝物。(個人蔵)